東京多摩プロバスニュース

第 80 号

■事務局: 〒206-0021 東京都多摩市連光寺 3-31-3 滝川方■編集・発行:広報委員会 2018.9.5.

■電話・FAX (042)372-2238 ■URL: http://www.tokyo-tama-probusclub.com

未来のために多摩の創生、再生を！

第 15 期 定期総会、第 169 回 定例会
日 時 :平成 30 年 7 月 4 日(水)午後 1 時 30 分より
場 所 :関戸公民館第 2 学習室
出席者 :24 名(会員数 27 名)

第 170 回 定例会
日 時 :平成 30 年 8 月 1 日(水)午後 1 時 30 分より
場 所 :関戸公民館第 3 学習室
お客様 :横濱プロバス倶楽部ダニエル T.山田様 他7名
出席者 :24 名(会員数 27 名)

理 念

1. 豊かな人生経験を生かし地域社会に奉仕する
2. 活力ある高齢社会を創造する
3. 会員同士の交流と意欲の向上をはかる
4. 非政治的、非宗教的、非営利的であることとする

◇◇◇ ごあいさつ ◇◇◇

新年度を迎えて

澤雄二会長

西村前会長の後を引き継ぎ、平成 30 年度（第 15 期）会長を務めさせていただきます。どうぞ宜しくお願いします。

今期スローガンを「未来のために多摩の創生、再生を！」とさせていただきました。多摩市の未来が危ういと思われるからです。一昨年の 7 月、驚くべきニュースが伝わりました。基準地価の発表で、多摩地域のほとんどの市の住宅地価が上昇しているのに多摩市は下落しました。何故、多摩市だけが？去年もほとんどの市が上昇しているのに多摩市は前年並みに留まりました。つまり、当市だけ下落したままなのです。多摩市の今年度の予算は衝撃でした。なんと 22 億 4,000 万円もの減額となったのです。贅肉をそぎ落すのは当然です。予算編成で重要なことは、景気を低迷させないために有効に再配分することです。4.2%もの減額は危険な水準です。

私たちの未来の生活を守るために、子や孫に“ふるさと多摩”を継承できるように市民の総力を挙げて、また会員の英知を集めて、多摩の創生、再生をはかることは待った無しの焦眉の急です。

プロバスクラブは、地域社会への奉仕と会員相互の親睦が活動の両輪です。工夫を凝らし、楽しく、有意義な定例会や研修会を展開し、心優しい組織を目指します。市民の皆様に刺激的で興味深い情報を伝える「多摩市寺子屋」の創設を目指します。

多摩センター夏祭盆踊り大会(8/4～5)
落合自治連合会・多摩センター商店会主催

当クラブは今期、創立 15 周年を迎えます。15 年間の活動の軌跡を留めて、未来への発展を決意する周年行事を執り行います。

去年の秋から今年の春にかけて、私達は 3 人の大切な友を失いました。岡野一馬、稲田興、平田哲郎の各氏です。クラブ発足初期から活躍され、皆さん、多摩プロバスクラブをこよなく愛されてきました。しかしいつまでも悲しんでいると叱られそうです。7 月の総会で二人の方が入会されました。所敏行さん、伊藤健一さんです。3 人の遺志をしっかりと受け止めて、多摩プロバスクラブの永遠性の確立のために、新たなスタートを既に開始しました。

◇◇◇　第 15 期定期総会　◇◇◇

第 15 期定期総会(平成 30 年度) が 7 月 4 日(水) 午後 1 時 30 分より関戸公民館第 2 学習室で開催された。

開会に先立ち、伊藤健一氏 (桜ヶ丘在住)、所敏行氏 (連光寺在住) の入会式を行い、プロバスクラブバッジ等の贈呈を行った。

総会は、議長・書記が選出されて審議に入り、第 1 号議案から第 6 号議案まですべて異議なく承認された。

第 15 期の新役員と活動方針の概要は下記の通り。

1. 平成 30 年度新理事・監査

会長	澤　雄二
副会長	大澤　亘
幹事	鈴木泰弘
会計	藤嵜喬子
総務委員会委員長	小池　博
研修・親睦委員会委員長	滝川益男
地域奉仕委員会委員長	中村昭夫
広報委員会委員長	北村克彦
監査	堀内陽二

(総会では地域奉仕委員長は倉賀野武士で承認されたが、その後病気のため、中村昭夫に交代)

新任の役員；左から藤嵜会計・滝川(益)研修親睦委員長・堀内監査・中村地域奉仕委員長・小池総務委員長・澤会長・大澤副会長・鈴木(泰)幹事　・北村広報委員長各位

2. 平成 30 年度基本目標と活動方針　　澤雄二会長

＜スローガン＞

「未来のために多摩の創生、再生を！」

1) 基本目標

ふるさと多摩を子や孫に継承するために、市民の生活を守るために、地域社会に奉仕し、多摩市の創生、再生を目指す。

2) 活動方針

① クラブの永遠性の確立のために、会員の増強、若返りを図り、組織の体制強化を実現する。

② プロバスクラブは地域社会への奉仕と会員相互の親睦が活動の両輪であり、地域奉仕と会員の自己啓発を目的として“市民寺子屋塾”を創設する。多摩市の進める ESD 活動への支援は引き続き進める。

③ 会員相互の親睦を深めるために、工夫を凝らし、楽しく、有意義な定例会、研修会、イベント、サークル活動を展開し、心優しい組織づくりを目指す。

④ 創立 15 周年を迎えるに当たり、15 年間の活動の軌跡を留めて、未来への発展を決意する周年行事を執り行う。

⑤ 多摩市の創生、再生を目指して、会員の衆知を集約し、行政への提言の方法、あり方等について検討を進める。

3. 各委員会の活動方針

1) 総務委員会　　小池博委員長

クラブ全体の円滑な運営、計画の実行に努力する。

2) 研修・親睦委員会　　滝川益男委員長

会員の自己研鑽と相互の親睦を図ることを目標として、他クラブ・各種団体との交流を深める。

交流の活動計画を推進する。

3) 地域奉仕委員会　　中村昭夫(倉賀野武士)委員長

会員の豊かな経験・実績を活かし、地域奉仕活動を実施する。

4) 広報委員会　　北村克彦委員長

定期的に会報を発行するとともに、クラブのホームページ運営を中心に、当クラブの広報面での諸活動を行う。

7 月 4 日 (水) 総会・定例会終了後の夕刻、京王クラブ 3 F で恒例の懇親会を開催、来賓に東京多摩 RC から会長飯島文彦様を迎え、会員 22 名が参加。上田清会員の軽妙な司会、瀬尾日出男会員の賑やかな進行でカラオケを楽しんだ後、故・平田哲郎会員の替え歌「プロバスとみちづれ」を全員で斉唱して懇親を深めた。

(滝川益男会員記)

◇◇◇　幹事･委員会報告　◇◇◇

1. 幹事報告　　鈴木泰弘幹事

1) 新理事の挨拶関連

・7 月 10 日(火)東京多摩ロータリークラブの例会に、西村前会長、澤会長、鈴木(泰)幹事が訪問、挨拶をした。

・7 月 13 日(金)鎌倉プロバスクラブの例会に、澤会長、鈴木(泰)幹事が訪問し、就任挨拶と正親睦弘会長他と意見交換を行った。(会場：鎌倉プリンスホテル)

・8 月 9 日(木)東京八王子プロバスクラブの例会に、澤会長、鈴木(泰)幹事が訪問し、就任挨拶と馬場征彦会長他多くの会員と交流を深めた。

◇◇◇　幹事・委員会報告（つづき）◇◇◇

・8 月 18 日(金)埼玉浮き城プロバスクラブの例会に、西村前会長、澤会長、鈴木(泰)幹事が訪問し、就任挨拶と、大久保毅会長、鴨田武幹事他の会員と交流を深めた。

・行政機関、他の関連団体への挨拶は送付により完了。

2) 新年度の会員構成

会員　27 名　(内休会 1 名)　会友　8 名

3) 今年度のスケジュール確認

定例会は第一水曜日、但し 2019 年 1 月は 9 日、5 月は 8 日を予定する。理事会は毎月の最終水曜日とする。

＊創立 15 周年行事は 5 月 15 日(水)に行う。

4) 全日本プロバス協議会総会・全国大会

11 月 28 日(水)三重県四日市市にて行われることになり、当クラブより、澤会長、中村昭夫、滝川益男、滝川道子、秋山正仁、伊藤健一の 6 名が出席する予定。

2. 委員会報告

2. 1. 総務委員会　　小池博委員長

1) 169 回定例会で予定の卓話「私の南アフリカ体験記」は総会が長引いたため取りやめ、12 月以降に行うこととした。

2) 170 回定例会では横濱プロバス倶楽部のダニエル T. 山田氏の交換卓話「マッカーサー」を行なった。横濱プロバス倶楽部からダニエル様含め 8 名の参加をいただき、定例会後の懇親会も盛会だった。　(関連記事 P4 参照)

3) 卓話、講話については活発なご提案をお待ちします。

2. 2. 研修・親睦委員会　　滝川益男委員長

1) 本年度研修計画：先般行ったアンケートに基づき、多摩市内・東京都内・近郊各県への見学会・バス旅行・ウォーキングの諸案を検討、具体化へ向け動き出した。

2) 堀内会員企画の 8 月 23 日（木）パルテノン多摩「マジックサウンドルーム」見学会は、参加者 20 名を数えた。なお、クラブ間交流で例会に出席された横濱 PC 会員の倉嶋康氏も参加された。

2. 3. 地域奉仕委員会　　上田清副委員長

計画事業の推進について検討を行い、特に ESD への支援や市民企画講座のテーマについて議論を深めるとともに、懸案事項となってきた「寺子屋塾の創設」に向けて、次回から具体的な方策の検討を行うこととした。

2. 4. 広報委員会　　北村克彦委員長

有力なメンバーを失った痛手は大きいが、これまで通り、会報の発行、ホームページの運営を中心に広報面から当クラブの活性化を図っていく。9 月 4 日にプロバスニュース 80 号を発行予定。

◇◇◇　新入会員紹介　◇◇◇

◇所敏行氏

1944 年 1 月 1 日生まれ。警視庁に永年勤続し、第一回警視庁白バイ安全運転競技大会において優勝・初代チャンピオンとなる。白バイ訓練所の教官を 7 年間勤めた後、定年退職後は「国際協力機構 JICA」に勤務、海外 56 カ国以上を巡回し青年海外協力隊等多くの青年を指導してきた。平成 27 年春の叙勲で「瑞寶雙光章」を受章。柔道三段・剣道初段。他人の幸せと無事故を懸命に祈り行動する自身に誇りを感じるという熱血漢である（滝川益男記）。

〔所敏行氏の一言〕世のため人のため尽力し、どんな苦難や苦境に遭遇しても、目線を上げて着実に前進する覚悟です――。

◇伊藤健一氏

1949 年 1 月 10 日生まれ。株式会社「ニイタカ」に 27 年間勤務され、主に技術開発・製品開発・知的財産管理に取り組まれました。退職後、それまで培ってきた IT の知識を生かして有限会社「SKYY」を設立され、インターネット広告を中心とする業務を 10 年間経営、広告業界大手主催のアワードにおいて業績日本一の会社に 2 年連続ノミネートされました。リタイア後は、数年前から多摩市の「パソコンボランティア多摩」に加入して活動中です（滝川道子記）。

〔伊藤健一氏の一言〕縁あって多摩プロバスの一員とならせていただきました。新たな挑戦の場として頑張りたいと思います。

◇◇◇　バースディ・プレゼントの紹介　◇◇◇

携帯用 LED ライトの紹介　　大澤亘副会長

7 月の定期総会で副会長に選任され、最初の仕事が定例会での会員へのバースデープレゼントだった。第 1 回の贈呈日が迫ったのに、記念品の選定に困っていた前期末の 6 月 24 日(日)、研修・親睦委員会主催の恒例のホタル観賞会に参加した。今年は例年より蛍の現れる場所から少し離れた所に休憩場所を設営したのでホタル観賞のためには、暗い大谷戸公園内の小路を往復しなければならなかった。また、解散後に最寄りのバス停まで僅かな距離だったが、街灯などない全くの山道で、朧月の僅かな光を頼りに同行の北村会員とともに苦労した。

そのとき思いついたのが足元を照らすには十分でしかも一般の見物客に迷惑とならない程度の明るさの携行用 LED ライトだった。

これを贈呈して来年の観賞会に多くの会員が参加してくれれば一石二鳥と考え、贈答用に乾電池付きで包装してもらったものである。

◇◇◇　横濱プロバス倶楽部の紹介　◇◇◇

近隣プロバスクラブとの交流会をはじめ、卓話やゴルフ、囲碁、俳句などの交流がなされるようになり、相互のクラブの活動に関心がもたれるようになってきました。更に深めるべく近隣プロバスクラブのプロフィールを紹介させていただいております。今回は横濱プロバス倶楽部です。

横濱プロバス倶楽部は、2001年1月30日の設立、18年目を迎えます。ホームページを開くと冒頭に「楽しくなければプロバスではない」が目に飛び込む。会員数は42名。

＊同好会には、にこにこサロン(夏冬 2 回、自由参加の飲食会)、海山同好会(潮干狩り、バーベキュー大会など年1、2回)、ゴルフ同好会(年数回)、旅行同好会、グルメ同好会、以下毎月のボウリング同好会、パソコン同好会(外部講師)、英会話勉強会(講師：ダニエル T.　山田会員)、カラオケ同好会等多岐にわたり、活発に活動をされております。

＊他クラブとの交流は、神奈川県内の PC をはじめ、福島プロバス倶楽部、全日本プロバス協議会東日本ブロック交流会、同左総会等、積極的に交流を進めております。この8月1日(水)の東京多摩プロバスクラブ例会にて、ダニエルT.山田氏に下記の交換卓話をしていただく。

＊会長；岡部正久氏、副会長；東野　操氏
　幹事；神谷恒夫氏、副幹事；保谷英雄氏
　事務局・会計；松下尚雄氏

＊例会式次第（12:00～　、会場；YBS 南幸ビル9階）

- 昼食タイム
- 開会　幹事
- 会長挨拶、ゲスト紹介　会長
- ビジター紹介、新入会員紹介　紹介者
- 誕生月会員紹介　会員委員長
- 会務報告
  - ⅰ)理事会協議及び決定事項報告　会長
  - ⅱ)各委員会報告(例会・会員・情報)　各委員長
  - ⅲ)全日本プロバス協議会　全日本会長
- 事務局報告　事務局長
- 会員放談
- 同好会活動報告と予定　各同好会
- 今月の歌　全員起立合唱
- 閉会の言葉

＊広報誌「よこはま通信」の発行(年3回)
＊ホームページ；yokohama1probus.com

◇◇◇　交換卓話　◇◇◇

交換卓話「マッカーサー」

横濱プロバス倶楽部　　ダニエルT.山田氏

○生い立ち

誕生と同時に母を失った私はアメリカの富裕な夫人に引き取られコロラド州で幼年期を過ごした。このアメリカの母は私に日本人としてのアイデンティティーを持たせるために、4～5 歳の頃から日本の小学校の教科書を取り寄せてローマ字のフリガナを一緒に読んでくれた。

○従軍、朝鮮戦争勃発

成年に達した私はコロラド州第4歩兵師団工兵隊に入隊した。1950年6月25日北朝鮮軍13万がソ連製戦車T34を先頭に立て 38 度線を越えて侵略してきた。韓国を支援する国連軍の主力米軍は勇猛なウオーカー中将の指揮する第八軍であったが、貧弱な武器しか持っておらず釜山まで追い詰められていた。彼はパットン戦車軍団の将として大活躍し、ナチスの戦車1,200台を壊滅させた猛将である。

その頃国連軍を悩ませていたのは日本語しかできない韓国の将兵との意思疎通であった。そこで日本語のできる私はウオーカー中将の側近として活躍する事になった。

○マッカーサー（池上彰氏の三つの過ち）

北朝鮮軍に追い詰められた国連軍は最後の拠点釜山で重要な作戦会議を開くことになり、マッカーサーが東京からやってきた。ウオーカー中将の命令でコーヒー好きのマッカーサーに、鉄兜で沸かしたお湯でCレイションに付属していたインスタントコーヒーでもてなした。これをありがとうと言って黙って飲んでくれた。私はマッカーサーに抱いていた反感はこれですっかり氷解した。

仁川上陸作戦について、多くの将は干満の差が激しく成功が覚束ない作戦に反対し、韓国を放棄して日本で巻き返すべきだと主張した。しかしマッカーサーが主張したのは「北朝鮮と背後のソ連が狙っているのは日本だ。大戦中私は日本人を野蛮人だと思っていた。しかしこの国に来てみて日本人ほど正直で、智と仁のある民族はいないと思うようになった。日本は将来米国を抜いて立派な民主主義国になり世界に民主主義を広めるだろう。この国を守らなくてはいけない」と自説を押し通し仁川上陸作戦を成功させた。仁川の地形的な難点を克服するために、大磯で訓練中の上陸作戦を得意とする海兵隊を投入、また日本で木製の梯子を大量に作るなどの対策が功を奏したのである。

このように日本を大事に思っている人格者で聡明なマッカーサーを評して池上彰氏は

＊退役後帰国して大統領になりたかったがなれなかった。
＊アイゼンハウワーとの士官学校でのトップ争いに負けた。
＊日本人は12歳以下と言った。

などと発言したが、大間違いであることはお判りになると思う。

○臨死体験

その後国連軍は勝ち進み、鴨緑江まで進軍したが、突然60万人の中共軍に攻め込まれ退却を余儀なくされた。その最中、私は肺炎に侵され瀕死の状態になり釜山の死体置き場に放置されたが、幸い死体でないことを発見され生き残

◇◇◇　交換卓話(つづき)　◇◇◇

れた。この時臨死体験をした。

その後政府機関員として北朝鮮からの米兵の遺骨引き取りに従事し、ベトナム戦争には空挺隊員として参加したが、この戦争には賛成できない。　　(文責　小池博会員)

◇◇◇　会員の活動　◇◇◇

私と文団連　　堀内陽二会員

振り返れば昭和46年は多摩市市政施行(多摩市誕生)の年で、多摩ニュータウンへの第1次入居が始まった時期。各地から大勢の転入者に対しどの様な受け入れ環境づくりが出来るか、多摩市民としていかにスムースに溶け込んでいただけるか等、市の行政はじめ心ある地元や先人たちが腐心されたと聞き及んでいる。昭和47年度に文化団体連合(以下　文団連)なるものが設立され、当時茶華道連盟はじめ4団体が参加し市と連携しての文化祭が実施されたとか。

より多くの市民同士のふれあいの場がひろがり、お互い学び合い・磨き合い・助け合っての仲間づくりへとつながる、明るく元気な街づくりへの思い！！　そこに文化団体連合誕生の原点を見ました。当時、囲碁連盟でも“囲碁を楽しみながらみんな友達になろう”といった掛け声で市民囲碁大会等普及活動がありました。

その頃、私はまだ都内(中野)に住んでおり、多摩市に転入、引越してきたのは昭和 49 年春のことでした。多摩市民となったものの、会社は都内で通勤に明け暮れ、昭和時代が終わり平成に入ってからも、しばらくは仕事仕事の毎日、平成 10 年頃からリタイアしてやっと多摩市民としての近所付き合いとなりました。

先ずは囲碁連盟の役員として仲間入りし、平成16年にはその連盟の会長に推され、10年間務めました。その関連で文団連の理事となり(これが文団連と私のかかわりのはじめ)、平成18年から常任理事となり、その後平成22年5月の総会で理事長に就任し、今日に至りました。

そして、この度本年5月の総会をもって(役員改選を機に)理事長を退任しました。在任8年間は我ながら聊か長すぎたと思いつつ(せいぜい2期4年が妥当？かな)諸事情で結果的に今日に至ってしまいました。

在任中の諸活動の事は、プロバスニュースにその都度ご報告しましたが、多摩市くらしと文化部はじめ教育委員会、文化振興財団(パルテノン多摩)や社会福祉協議会、また、富士見町文化協会はじめ近隣市文化協会との交流など有難い貴重なご支援ご協力を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

後任の新理事長は私の理事長時代、副理事長として共に活動してこられた、ご存知当クラブの会友の青木ひとみ氏(多摩市日本舞踊連盟の会長でもある)にバトンタッチ出来ホットしています。

文団連といい、芸術・芸能といった分野においてそれぞれジャンルは違っていても多彩で優れた技・芸の持ち主の集団にあって、お互い研鑽し合いながらの仲間づくりに、また、明るく元気な文化活動盛んな街づくりを目指してのボランティア活動を続けるといった生涯学習社会に身を置きながら、今日まで年を忘れ、良きご縁、良き出合いに恵まれて共に歩んでこられたこと、今更ながら感謝の気持ちで一杯の今日この頃です。

◇◇◇　寄　　稿　◇◇◇

介護保険の通知を手にして　　阪東熙子会員

自転車にも乗れず、車の運転もが出来ぬ私は、毎日バスを利用する。その度に京王バスの車内アナウンスで「多摩市は健康で幸せな街、健幸都市を宣言します」「飲み終えたペットボトルを、どうやって捨てていますか」と必ずセットで聞かされる。冷房の下でパタパタとはためく車内広告に「健幸」という合成語を見かける。読みは同じだが、漢字が違う。今、流行かも知れぬが、私は余り好きではない。言葉には其其生い立ちがあると思うから……。

そんなある日、若草色の多摩市健康福祉部介護保険課から一通の封書がポストに。活字好きの私は、ともかく開封。そして、平成30～32年度の介護保険料についてと題した項の基準額比較の箇所を見て、ビックリ!!　保険料が、全国の平均では月に5,869円、東京都平均では月に5,911円、多摩市平均では月に4,809円と、多摩市は全国平均より月に1,060円も安い金額が、書かれているではないか。太字の説明によれば「元気な 65 歳以上の方が多く、介護サービスの費用が少なく見込まれる事によるものです」と。なる程と合点した。歳いっても元気で家族や周囲に迷惑をかけまいと、食に注意し過して来た事が、数字に現れ、社会貢献に繋がるとは、90過ぎて初めて知った。市民一人一人の自覚・使命感が、行政費用の合理化にかかわる事を教えられた。

多摩市は緑が多く、治山治水の理念によって都市計画され、未曽有の災害が全国各地に起っている中、平穏無事に暮らしていられる、幸せな事だ。「良きに計らってくれるだろう」と、今迄は行政に余り関心を持たなかった事を反省した。今後送られてくる書類は隅から隅まで熟読し、一市民として老い先短いが、健幸都市造りに協力しようと思わせてくれた一通だった。

◇◇◇　寄　稿　◇◇◇

ゴルフと私　　北村克彦会員

私がゴルフを始めた 40 歳の頃、周りにゴルフをする人はそれ程多くはなかったし、私自身もゴルフには全く興味がなかった。それが、ゴルフしてみようという気になったきっかけは、東京から新潟へ転勤になった時の転勤先の上司の勧めであった。一緒に食事をしながら、仕事の話から上司の人生経験を聞くうちに、ところで君はゴルフをやるかという話になった。「ゴルフは人生そのものだ。自分の失敗は自分で取り返すしかない」というような言葉だった。上司が熱く語る人生論を聞いて、お付き合いの気持ちもあったが、やってみようかなという気になったのだ。

そして今、大げさかもしれないが、往年の名プレーヤー、ラジャード・ギャブリンの言葉「ホールの中に人生のすべてがある」に同感もできるようになった。

人は時に運がいいと喜び、運が悪いと嘆くが、ボビー・ジョーンズは、「長い目で見れば結局、運というものは平等公平なものだ」と悟っている。これも同感。

また、物事がうまくいかないと、その原因を外部のせいにしがちなのが人間だが、トム・シンプソンは、「プレーヤーの最大の敵は、コースでも相手でもなく自分自身だ」と言っている。

また、人生は良いことばかりは続かないが、ジーン・サラゼンは、「ゴルフで油断が生まれる最も危険な瞬間は、万事が順調に進行しているときである」と戒めている。

スコットランドのゴルフに関する言葉に、「愚者はまぐれあたりを自慢し、賢者はミスショットから学ぶ」または、「賢者は他人の失敗から学ぶが、愚者は自分の失敗から学ばない」というのがある。

ゴルフのコースは様々であって、ルールはあるものの、マナーが基本の競技である。「ゴルフはすぐ上達しないが、マナーのシングルには今日からなれるよ」といったのは、赤星四郎である。ゴルフを通して色々な人と知り合える。ゴルフを一日一緒にすれば、その人の性格が分かる。

ボビー・ジョーンズの言葉「人生の最後にいくらの財産を得たかではない。何人のゴルフ仲間を得たかである」

「ゴルフはすぐにうまくならないが、いつ始めても遅すぎることはない」に対して、「過ちを改めるのに遅すぎるということはない」もある。

ゴルフを始めてから 40 年、腕は一向に上達しないが、ゴルフから人生を学び、多くのゴルフ仲間を得ることができた。ホールインワンという思いもかけなかった幸運にも恵まれた。これからも、体の続く限りゴルフとお付き合いしよう。

◇◇◇　ハッピーバースデイ　◇◇◇

1.7 月誕生日を迎えられました！

左から鈴木泰弘・西村政晃・滝川道子各会員

鈴木氏一言；厄年に大病するもすでに寛解。毎夏感謝！

西村氏一言；健康で、共にクラブライフを楽しもう！

滝川氏一言；二人の食事大きな声でいただきます、血流が良好。

2.8 月誕生日を迎えられました！

左から上田清・阪東熙子各会員

上田氏一言；人生 100 年、頑張ります。

阪東氏一言；日新又日新の道すがら、来し方背負い茶書が友。

◇◇◇　編集後記　◇◇◇

今年も 73 年目になる終戦記念日を迎えた。戦争で亡くなった多くの人たちの追悼が行われた。あの戦争で一般市民を含めて約 4 百万人の人が亡くなった。

終戦後日本は、軍事国家から民主主義国に変身して、その後大いなる成長を遂げている。日本の近代の歴史において、武家社会の士農工商という身分制度を廃止して、すべての人民は国民として平等に扱われた明治維新と太平洋戦争の終戦は、日本の社会を大きく変えた重要な出来事である。私たちは決してこれを忘れてはならないことであると思う。

多摩プロバスにおいては今年度、社会奉仕活動の一環として「寺子屋」という名目で市民講座の開設を検討していくこととなった。多摩市においては多くの課題があるが、いくつかの問題を市民が共有して問題解決の糸口にでもなれるような講座内容を検討することになるであろう。住みよい社会、生きがいある社会を築くために少しでも寺子屋が寄与できるようにしたいものだ。

健幸都市多摩市実現の一助になれば幸いです。

（広報委員　中村昭夫会員記）